

1 契約締結時の案内

日本への入国・帰国（以下、「入国」という。）に当たって、以下の事項について、別添2～4を活用して説明。

① 検査証明書の提示

すべての入国者・帰国者について、出発前72時間以内に新型コロナウイルスに関する検査を受け、現地医療機関等から「陰性」であることを証明する検査証明書を取得し、入国時に提示する必要があること。

② 検疫所が確保する宿泊施設での待機と検査の実施（赤字が新たな追加国。新たな追加国については、10日待機国は11月30日午前0時（日本時間）から、6日及び3日待機国は12月1日午前0時（日本時間）から施行）

- ・ エスワティニ、ジンバブエ、ナミビア、ボツワナ、南アフリカ共和国、レソト、ザンビア、マラウイ、モザンビーク、**アンゴラ**に滞在歴のある入国者・帰国者については、入国後、検疫所が確保する宿泊施設において待機し、待機3日目、6日目及び10日目に再度検査を受ける必要があること。待機3日目、6日目及び10日目の検査で陰性と判定された場合には、宿泊施設を退所し、入国後14日間は自宅等で待機する必要があること。
- ・ トリニダード・トバゴ、ベネズエラ、ペルー、**イスラエル、英国、オランダ、イタリア**に滞在歴のある入国者・帰国者については、入国後、検疫所が確保する宿泊施設において待機し、待機3日目及び6日目に再度検査を受ける必要があること。待機3日目及び6日目の検査で陰性と判定された場合には、宿泊施設を退所し、入国後14日間は自宅等で待機する必要があること。
- ・ アルゼンチン、ウクライナ、ウズベキスタン、エクアドル、ケニア、コスタリカ、コロンビア、スリナム、ドミニカ共和国、トルコ、ネパール、ハイチ、パキスタン、フィリピン、ブラジル、モロッコ、モンゴル、ロシア（対象地域のみ※）、**オーストラリア、ドイツ、チェコ、デンマーク、香港、フランス、カナダ（対象地域のみ※）、ベルギー、オーストリア**に滞在歴のある入国者・帰国者については、入国後、検疫所が確保する宿泊施設において待機し、待機3日目に再度検査を受ける必要があること。待機3日目の検査で陰性と判定された場合には、宿泊施設を退所し、入国後14日間は自宅等で待機する必要があること。

※ロシアにおける対象地域：沿海地方、モスクワ市

カナダにおける対象地域：**オンタリオ州**

③ 誓約書の提出

以下の事項を誓約した誓約書を提出する必要があること。

- ・ 入国後14日間は自宅又は宿泊施設で待機すること、また、公共交通機関を使用しないこと
- ・ 入国後14日間毎日、入国者健康確認センターに健康状態の報告を行うこと
- ・ 地図アプリ機能等により位置情報を保存すること等

④ 指定アプリのインストール、スマートフォン所持等の確認

- ・ 日本の空港の制限エリア内において、ビデオ通話や位置情報確認アプリ等のインストールを確認するため、必要なアプリをあらかじめインストールしていただきたいこと。
- ・ スマートフォンを所持していない場合、又はアプリをインストールできないスマートフォンを所持している場合は、入国者・帰国者の負担により、スマートフォンを借り受けるよう求めること。

⑤ ワクチン接種証明書に関する**案内の停止について**

条件を満たした有効なワクチン接種証明書を保持する入国者・帰国者については以下の措置を適用していたが、**12月1日午前0時以降に入国又は帰国する方へ措置の適用を停止する。**

- ・ 入国後14日間の自宅等での待機期間中、入国後10日目以降に自主的に受けた検査（PCR検査又は抗原定量検査）の陰性の結果を厚生労働省（入国者健康確認センター）に届け出ることにより、残りの待機期間が短縮されること
- ・ 検疫所が確保する宿泊施設で3日間の待機対象となっている指定国・地域から入国者・帰国者で、条件を満たした有効なワクチン接種証明書を保持する方は、宿泊施設での待機及び入国後3日目の検査を求めないこと。

2 誓約書等の配布

検疫所から要望があった場合には、機内で誓約書やそれに関連する書類を配布し、それらの書類を検疫官等に提出する必要があることを説明。